

市の指定文化財

区分	種別	国指定	県指定	市指定	計
有形文化財	建造物	2	5	11	18
	絵画			1	1
	彫刻		4	23	27
	工芸品		1	2	3
	書籍			1	1
	古文書		1		1
	考古資料			2	2
	歴史資料			2	2
民俗文化財	有形民俗文化財			1	1
	無形民俗文化財			7	7
記念物	史跡			6	6
	天然記念物		2	16	18
計		2	13	72	87

※令和8年6月末現在

市公式ホームページで、指定文化財の一覧と詳細を掲載しています。



大宮神社例大祭を新たに文化財に指定

例年5月に開催される大宮神社例大祭が、令和7年度に市指定文化財に指定されました。大宮神社例大祭は、玉造地区の伝統ある祭礼で、例大祭の構成は、神輿、大鉢、猿田彦神(天狗)、流鏝馬神事の4つに分かれ、それぞれが古式ゆかしい伝統を今に伝えています。特徴は、頭屋祭を中心とする神事で、注連縄張りや献立、薬で造る猿田彦神が見どころです。



麻生祇園馬出し祭り

7月4日(土)・5日(日)

八坂神社

八坂神社で毎年開催される麻生祇園馬出し祭り。この祭りは、麻生藩主が天下泰平、五穀豊穡を祈願したことに由来すると、戦いに備え馬を鍛錬するために行ったのが始まりとも伝えられます。初日の宵祭りでは、神輿を先頭に稚児や神職が行列をなして地区内を練り歩き、2日目の本祭りでは、馬場でヤマタノオロチに見立てた馬と神輿の勇ましい戦いが繰り広げられます。暴れ馬と人とが一体になり、八坂神社の境内を走り抜ける勇ましい姿が見どころで、その一瞬を撮ろうと、境内には多くの方が訪れます。



地域の歴史を巡る小さな旅へ ～スマホ片手に身近な歴史散歩～



案内板のQRコードから文化財の紹介動画を見ることができます

動画QRコードのある文化財MAP (16の史跡)



化蘇沼稲荷神社例大祭

8月23日(日)

化蘇沼稲荷神社

化蘇沼稲荷神社は、別名「関取稲荷」とも呼ばれ、境内には立派な土俵が常設されています。毎年8月に行われる夏祭りでは、豊作を祈願する奉納相撲が行われます。力士と同じようにまわしをつけ、小学生から一般の方まで、各地区の代表者が相撲を取ります。7つの地区が順番で当番地区となり、当番地区の女子児童による巫女舞も奉納され、雅楽の調べにのせた古式ゆかしい舞が披露されます。



山田祇園祭

7月25日(土)・26日(日)

八坂神社

北浦沿いの山田地区で毎年開催される山田祇園祭は、五穀豊穡・無病息災を願い行われる伝統の祭りです。この祭りは、神輿の扱い方が特徴的で、威勢のいいかけ声と共に神輿は転がされたり、投げられたりもみくちやになり、神輿が暴れば暴れるほど縁起が良いとされています。見どころは「御浜降り」で、レンコン田と北浦へ神輿と共に担ぎ手が飛び込む光景を初めて見る方は、とても驚かれることでしょう。また、暴れ神輿の後には、山車が繰り出し、囃子が奏でられ、笛や太鼓の美しい音色が響き渡ります。



祭りを動画で見たい方は



◀ 商工観光課
ホームページ

さらに深く知りたい方は



◀ なめがた日和
「なめがたヒストリー」

熱中症対策を十分に、出かけるようにしましょう。



化蘇沼稲荷神社

社名の由来になった沼はどこにある？

化蘇沼稲荷神社は相撲や巫女舞で有名な神社ですが、社名の由来はご存じでしょうか？神社々誌に「神社裏手に沼あり御神体出現し化神蘇生の由を以て人これを自然体信仰として崇め祀る」と記されています。しかし、本殿の周囲を見回しても、近くに沼は見当たりません。どこにあるのでしょうか？その答えは、本殿の裏手を真っすぐに進んだ「奥の宮」にあります。神様が出現したと伝わる化蘇沼にたどり着くには、この「奥の宮」を参拝しなければなりません。神様との出会いを信じて神秘的化蘇沼を訪れてみてはいかがでしょうか。



化蘇沼稲荷は数学の神？

神社の本殿には、江戸期の高名な和算家（数学者）関孝和が編み出した「関流」数学の問題や回答を記した「算額」が奉納されています。これは、この地域で高等数学である「関流」和算が普及していたことを示すものです。当時の和算家が、数学の研究や発展を祈願した化蘇沼稲荷神社。あなたも願えば数学好きになれるかもしれません。



※通常時は、本殿を開放していないため、算額を見ることはできません。



麻生藩家老屋敷

正門が赤いのはなぜ？

家主の畑氏は、麻生藩の家老として重用されていました。屋敷の創建は1620年頃であると推定されます。創建から236年後の安政3（1856）年に焼失しますが、翌年には再建されています。そこから本年まで数えると、約170年前の建物ということになります。その後、明治23（1890）年に、医師の福田安次郎氏が買い取り、医院を開業します。福田氏は、東京大学を卒業後、当地で開業しましたが、地域から厚遇され、地域医療の大切さや必要性を自覚して、生涯この地で診療にあたりました。正門が赤色なのは、病院の所在がわかるようにと福田家が後から塗ったものなのです。地域の方々のために配慮された思いやりの色だったのですね。



敷地内に植えてある植物に共通する特徴は？

敷地内には、多くの植物が植えられています。梅、栗、柿、ビワなど、観賞しても癒されますが、名前でも何か気付きませんか？そう、実は植えられている植物の多くが、食べられるものなのです。これは、武家の「たしなみ」で有事に兵糧として備えていたからです。訪問した際には、建物だけでなく、屋敷回りの植栽に注目して見学するのも一興ではないでしょうか。



文化財の案内人



生涯学習課（社会教育指導員）なるしま たかゆき 成島 崇之 さん

市報行方で、「行方歴史探検」の記事を毎月掲載中。本年度は「輝く行方の先人たち」をテーマに、人物を深掘りした内容をお届けしています。（裏表紙に掲載）

行方市は、約千三百年前の奈良時代に編纂された常陸国風土記や万葉集などに縁の深い土地です。そのため、市内には多くの貴重な文化財や遺跡があります。生涯学習課では、市の歴史と文化の魅力を伝えるべく、市内16の史跡の案内板にQRコードを設置して、スマートフォンから簡単に説明動画を視聴できるようにしました。歴史の見方や考え方は人それぞれで、市内の文化財や遺跡地にもさまざまな説が散見されますが、そうした歴史談議に花を咲かせ、ふるさと「なめがた」を再発見するのも生涯学習の楽しみ方です。現地に出かけて、古の文化に触れ、ロマンと歴史の息吹を感じてみてはいかがでしょうか。

いつもと違った視点で文化財を楽しんでみませんか？



大山守大場家郷土屋敷

実は隠れた名庭園？

屋敷は、江戸期（1661～72年）に建てられたもので、平成16（2004）年から5カ年計画で大規模な解体修理が行なわれ、幕末期の姿に復元されました。立派な御殿部に目が行きがちですが、遠近法や借景を巧みに用いたすばらしい庭園の造作は、あまり知られていません。元禄12（1699）年に、徳川光圀公が京都出身の水戸藩士、井上玄桐に築庭の監修をさせていることから、小ぶりながら京風で趣のある造りになっているものと考えられます。



塀の外側と内側では、高さが違って見えるのはなぜ？

表御門（長屋門）を道路から見ると、一段高い場所に構えられて両側に板塀が回っており、外側から見るとある程度の高さがあります。これを屋敷内の御殿部から見ると、塀の上側しか見えません。その秘密は、庭の前面に設えられた築山にあります。築山によって、庭に向かって左手の塀を広く見せ、右奥に行くほど狭く見せることによって遠近感を出し、塀の外側の樹木で借景の効果を狙っています。また、築山と塀の間には、深い溝があります。これは、防犯上の役割も果たしているものと考えられます。



西蓮寺

大銀杏の真ん中だけ黒くなっているのはなぜ？

最仙上人お手植えと伝えられる銀杏は、樹齢1,000年を超える老木です。1号株は幹周り約6m・樹高約25m、2号株は幹周り約8m・樹高約27mの巨木で、共に雄株で実をつけません。晩秋の黄葉は、一面黄色のじゅうたんとなり、目を見張る美しさです。しかし、よく見ると1号株の幹の真ん中が黒くなっているのに気が付くと思います。黒くなっている理由は、令和5年に雷が落ちたことで、幹内が焦げてしまったためです。過去には、台風で幹が折れたこともありましたが、台風や落雷などの災害にあっても、なお力強く生き続ける銀杏はパワースポットなのです。



日本全国に3つだけ、しかも実は日本一？

西蓮寺には、国指定重要文化財が2つあります。1つは仁王門で、もう1つが相輪櫓です。相輪櫓は、元寇（弘安の役）の戦勝記念に建立したもので、国内では比叡山延暦寺、日光山輪王寺と西蓮寺にしかない貴重な文化財です。そして、高さ約10mは、3つの相輪櫓のうち最大です。全国的にもとても有名なお寺と並んで、相輪櫓が建立されている西蓮寺は、桓武天皇の勅命で創建されたとても由緒あるお寺なのです。

6月11日（木）に公民館講座で、上記の文化財を巡るツアーを開催しました。

参加者の感想（一部）
専門的な解説でとても内容の濃いツアーでした。
身近にこんな深い歴史があることを初めて知りました。

住む地域に誇りが持てる田になりました。
解説者の詳しい説明や楽しい思い出のエピソードが良かったです。

